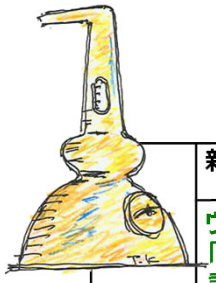
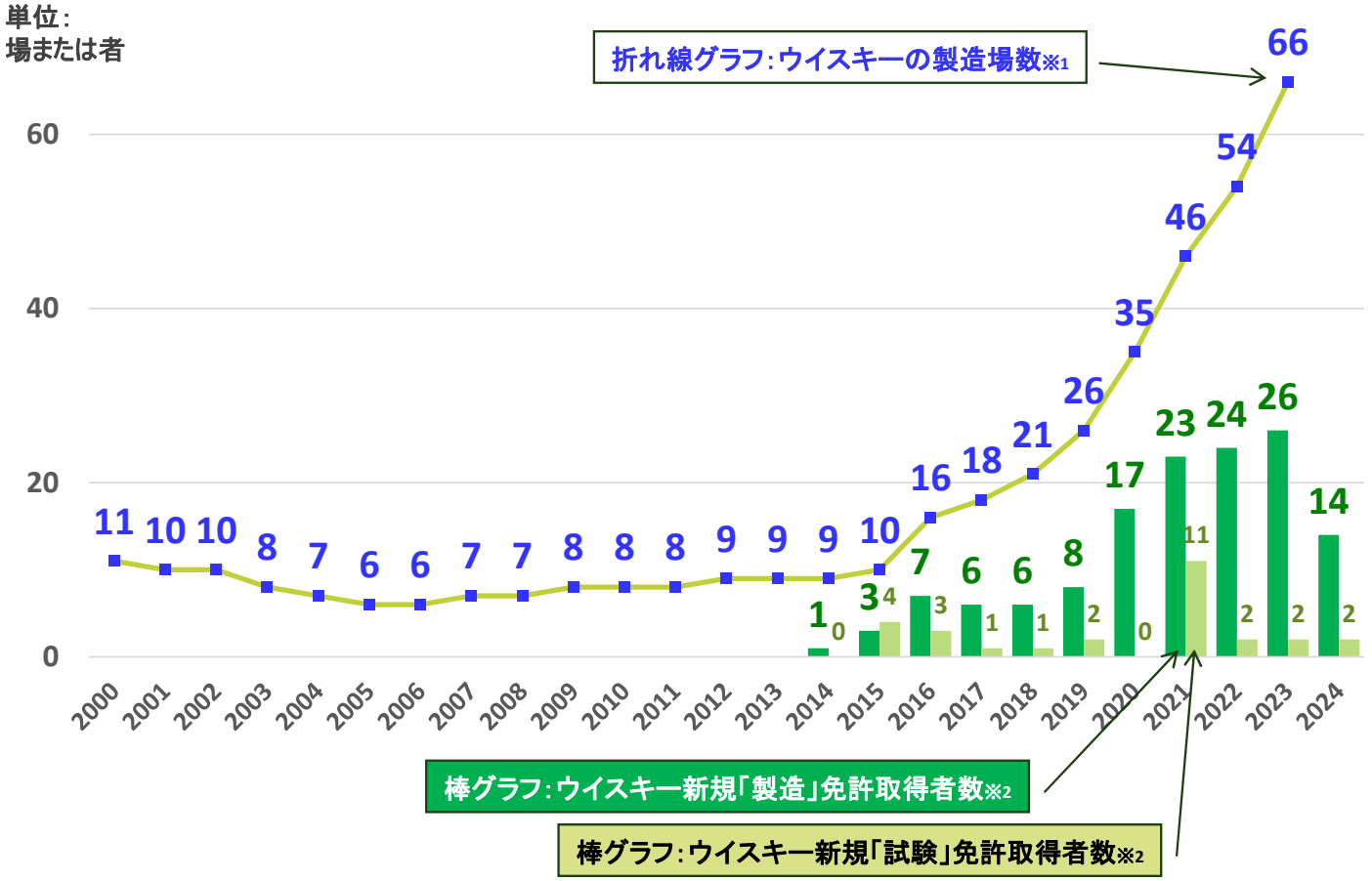


日本のウイスキー 製造場数・免許取得者数　2000年 → 2024年の推移

	新規のウイスキー免許 ※2		ウイスキー製造場数	
	ウイスキー「製造」免許取得者数	ウイスキー「試験」免許取得者数	ウイスキー製造場数 ※1	（参考）ウイスキー製造場数「外」※3
2000			11	68
2001			10	68
2002			10	67
2003			8	69
2004			7	70
2005			6	68
2006			6	65
2007			7	65
2008			7	66
2009			8	68
2010			8	67
2011			8	66
2012			9	65
2013			9	64
2014	1	0	9	65
2015	3	4	10	67
2016	7	3	16	70
2017	6	1	18	75
2018	6	1	21	81
2019	8	2	26	84
2020	17	0	35	99
2021	23	11	46	111
2022	24	2	54	127
2023	26	2	66	
2024	14	2		

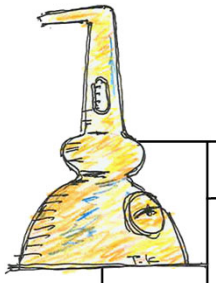
ウイスキー免許取得者数：2013年以前はデータを持ち合わせていない。



※1　国税庁の「酒税関係総括表」記載の製造場数で「複数の品目を製造している場合は製造量が最も多い酒類の品目に掲げている」年度表示＝「当年4月から翌年3月まで」。資料作成時点で2024（令和6）年度は未発表。

※2　「移転」や「法人なり」などを除く「新規取得」の数字。年度表示＝「当年1月から当年12月まで」。2013年以前はデータを持ち合わせていない。

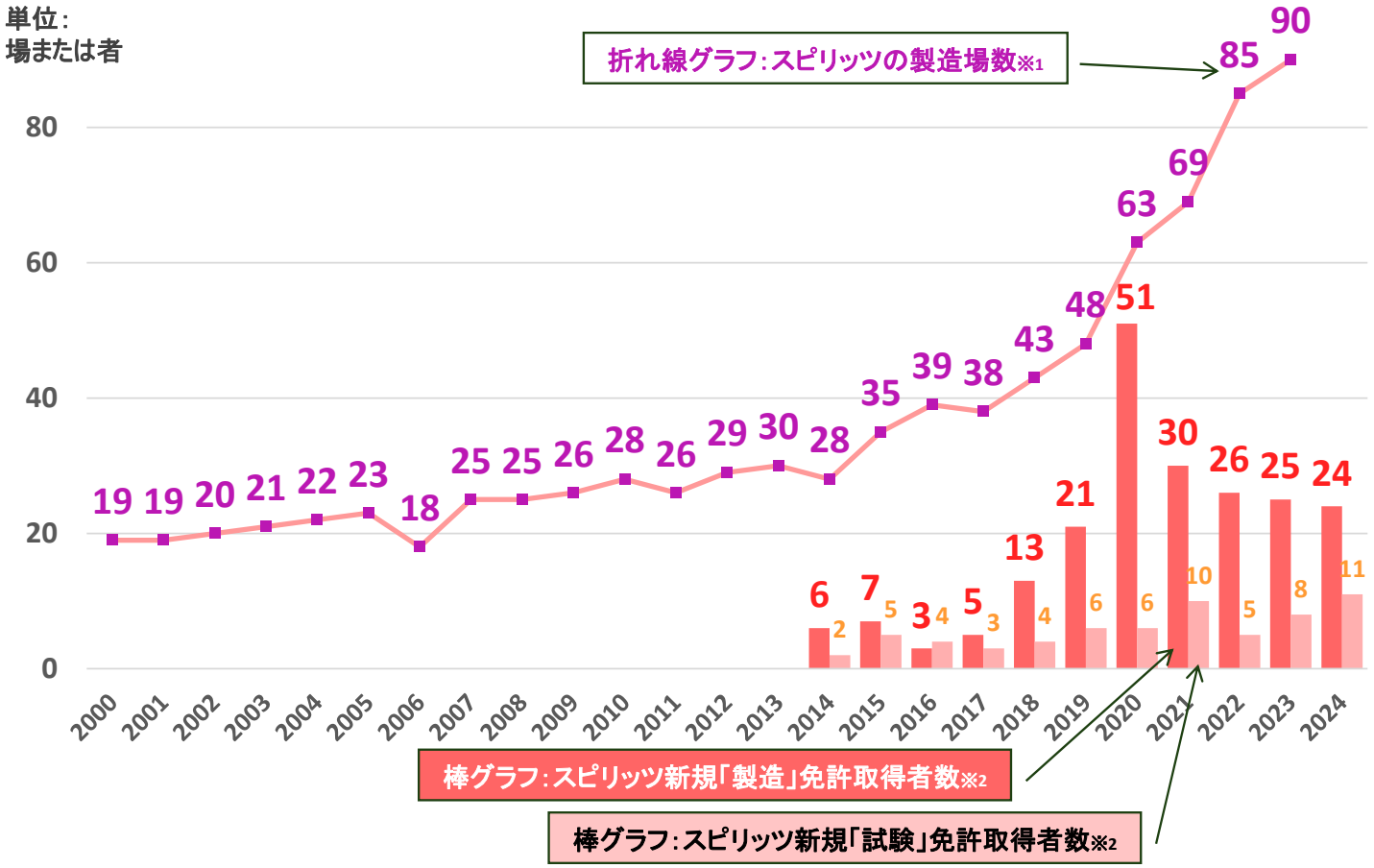
※3　国税庁の「酒のしおり」の「酒類等製造免許場数の推移」に「外」として記載される数。複数の品目を製造している場合、主たる酒類が本書き、その他が「外」書き。資料作成時点で2023（令和5）年度は未発表。



日本のスピリッツ製造場数・免許取得者数　2000年 → 2024年の推移

	新規のスピリッツ免許 ※2		スピリッツ製造場数 ※1
	スピリッツ「製造」免許取得者数	スピリッツ「試験」免許取得者数	
2000			19
2001			19
2002			20
2003			21
2004			22
2005			23
2006			18
2007			25
2008			25
2009			26
2010			28
2011			26
2012			29
2013			30
2014	6	2	28
2015	7	5	35
2016	3	4	39
2017	5	3	38
2018	13	4	43
2019	21	6	48
2020	51	6	63
2021	30	10	69
2022	26	5	85
2023	25	8	90
2024	24	11	

スピリッツ免許取得者数：2013年以前はデータを持ち合わせていない。



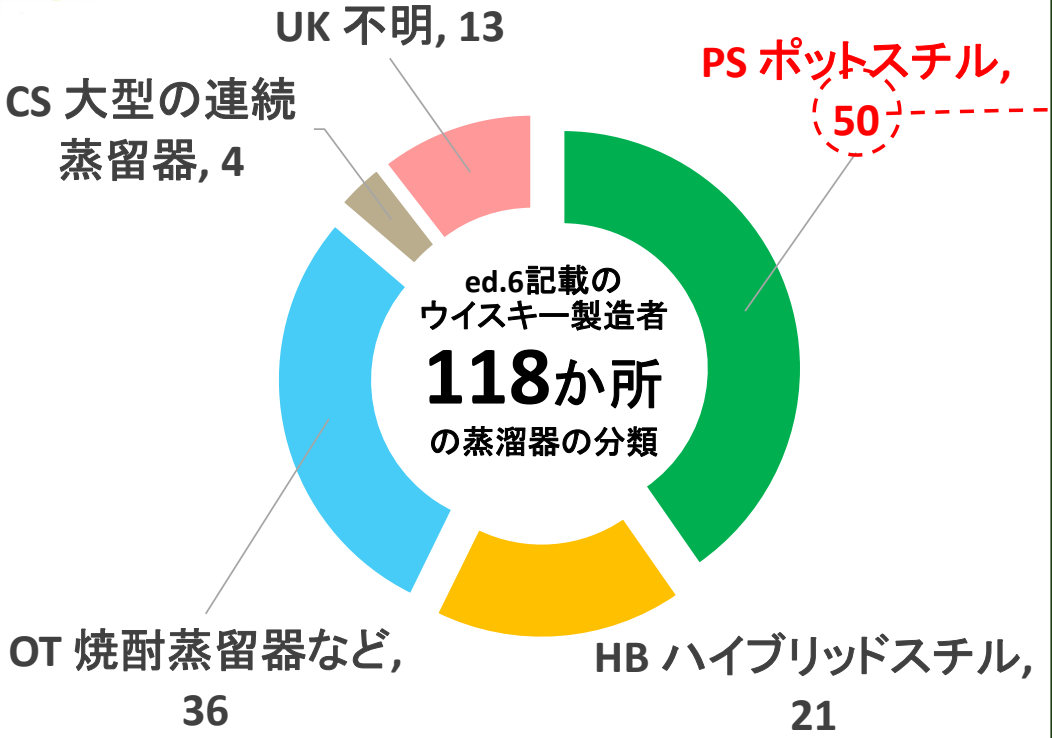
※1　国税庁の「酒税関係総括表」記載の製造場数で「複数の品目を製造している場合は製造量が最も多い酒類の品目に掲げている」年度表示＝「当年4月から翌年3月まで」。資料作成時点で2024（令和6）年度は未発表。

※2　「移転」や「法人なり」などを除く「新規取得」の数字。年度表示＝「当年1月から当年12月まで」。2013年以前はデータを持ち合わせていない。

「ウイスキーリスト
2025年版 ed.6 rev.1」
から作成

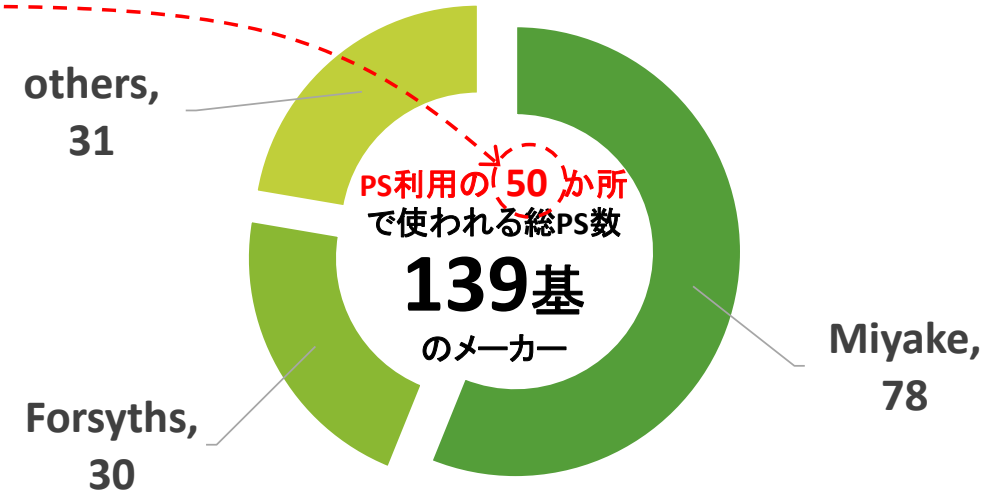
日本のウイスキー 製造者の蒸溜器について@2024年末

1.使用する蒸溜器の種類



ウイスキー製造に主に使用している蒸溜器と思われるものをカウント。小型のテストパイロット的な蒸溜器は設置していてもカウントしていない。しかし、常時、複数の蒸溜器を生産に使用していると思われる場合はすべてカウントしたので、総数は118以上となっている。
「UK不明」には蒸溜器を設置していないと思われる生産者も含まれる。

2.ポットスチルのメーカー分析



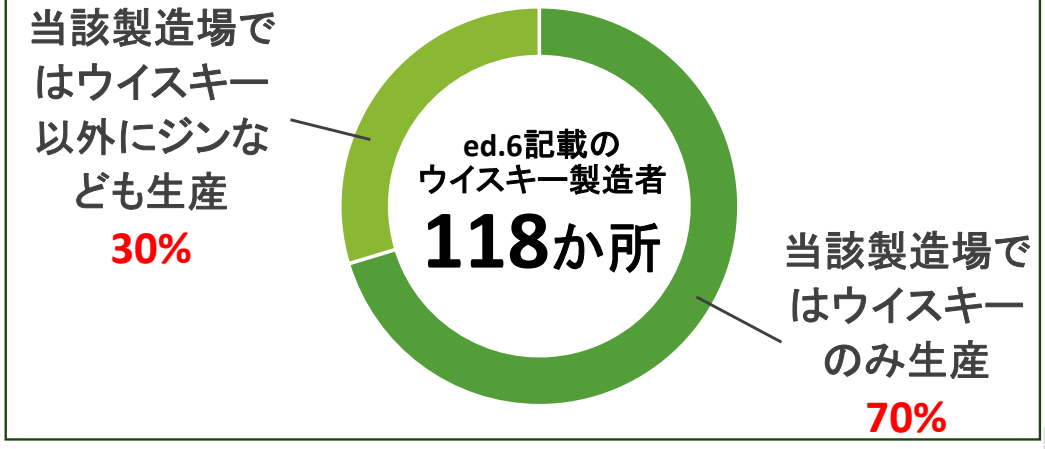
初溜、再留のポットスチル「2基」の場合が多い（39か所）が、「1基」で初溜・再留を兼用するところが3か所、「3基以上」保有するところが8か所あり、ed.6リストでカウントしたポットスチルの総数は139基となる。
サントリー、ニッカなどに納入する三宅製作所が78基と最も多く、ついでスコットランドのフォーサイスが30基。
その他は、Vandome(US)、Frill(IT)、Carl(DE)、Holstein(DE)、老子製作所(JP)、Hoga Still(PO)、ケミカルプラント(JP)なのほか、中国製やメーカー不明もいくつかある。

「ウイスキーリスト
2025年版 ed.6 rev.1」
から作成

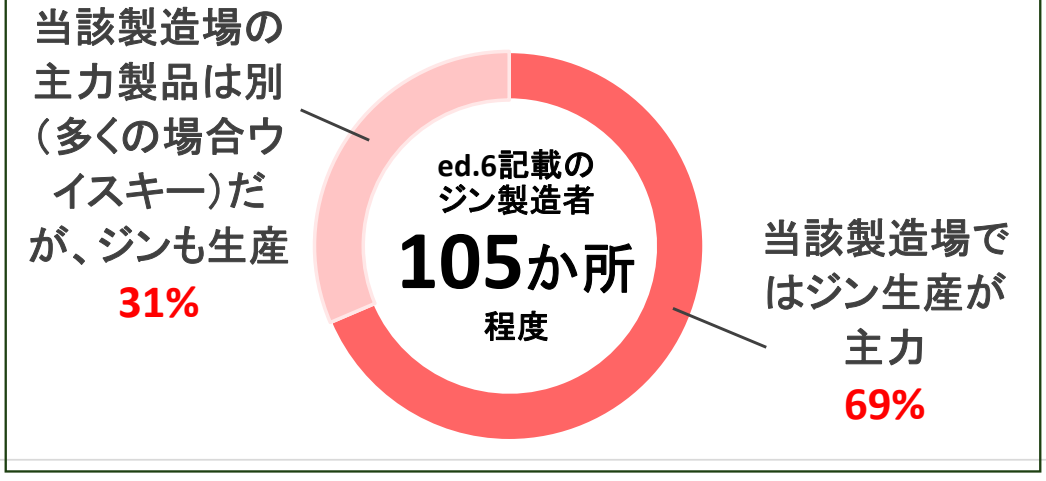
兼業状況について@2024年末

■ed.6 rev.1記載の酒類をカウントしたものだが、ジン、ラム、ウオッカについては正確な把握がむつかしく、抜けがあるかもしれない。したがって以下のチャートの総数は「程度」と記している。
■ed.6 rev.1のリスト上で「ウイスキー・ジン・ウオッカ・ラム」間の兼業状態のみをカウントしたもので、清酒・焼酎・泡盛メーカーなどによる兼業にはカウントしていない。既存の清酒・焼酎・泡盛メーカーなどが新事業（兼業）として開始したウイスキー、ジン、ラム、ウオッカブランドはとても多い。

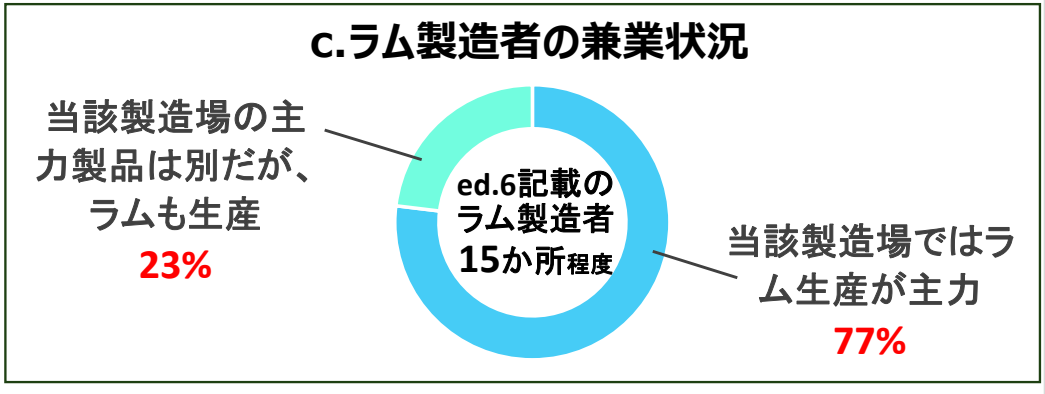
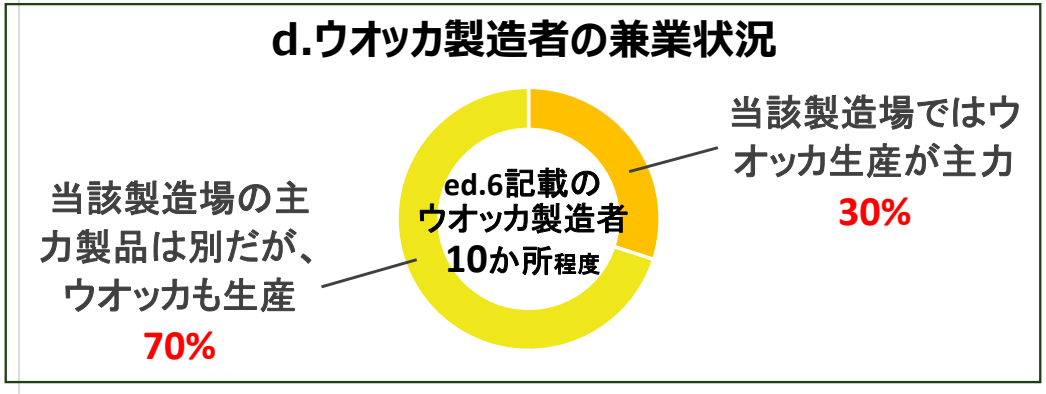
a.ウイスキー製造者の兼業状況



b.ジン製造者の兼業状況



c.ラム製造者の兼業状況



d.ウオッカ製造者の兼業状況